

委員ご発言への対応状況等

1 第13回運営委員会(R6.11.20開催)でのご発言への対応状況

ご発言	実施設計への反映状況など
①映像や音響などを工夫して別世界に引き込まれるような没入感のあるコンテンツを作成してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・防災シアターにおいて、VRの体験を追加しました。
②「都市型水害体験コーナー」の水圧ドアは、自動車のドアの方が本県の現実に即していて望ましい	<ul style="list-style-type: none"> ・水圧体験は自動車のドア仕様としました。
③「災害に備えるコーナー」は1家族4人として必要な食料や水の備蓄量とか、浸水時に備えてどこに保管しておけばいいかといった説明があるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ・4人家族が3日間暮らすために必要な食料・水・燃料を実物大のイラストで見える化します。 ・保管場所については、テキスト又は解説員の説明により補足します。
④能登半島地震の際は、避難所がどこか分からなかったという話をよく聞いたので「津波・液状化・避難所コーナー」でそういった情報が周知されるとよい	<ul style="list-style-type: none"> ・「津波・液状化・避難所・情報コーナー」では、タッチパネルにより防災マップ等にアクセスでき、その場で避難所等が確認できます。 また、各避難所の役割を説明します。

ご発言

実施設計への反映状況など

⑤団体や個人など多様な属性の来館者に対応したガイドランスや体験プログラムが準備されているとよい

- ・リニューアルした四季防災館へ多くの方が来館していただけるようイベント、情報発信について、指定管理者と検討します。

⑥一度に全部見せようとするのではなく、例えばある時期は都市型水害について重点的に説明するか、テーマごとにストーリー性のあるプログラムが必要

- ・体験コーナーが増加したことにより、地震対策を中心とするプログラム、地域の災害リスクと日頃の備えに重点を置くプログラムなど多様なプログラムを提供できると考えています。

⑦来館時の属性や時期によって、来館者の視点や知りたい情報は変わってくるので、定期的に情報が更新されていると良い

- ・また、災害に備えるコーナーでは、属性に応じ必要な備えを展示等していくこととしています。情報の更新については、企画展示などで発信していくことを指定管理者と検討します。

⑧四季防災館は団体向けの施設というイメージが強いので、個人で気軽に立ち寄れるような個人向けのコース設定があるとよい

- ・コーナーの中には、パネルや実物展示、解説員が付き添わなくても体験できるものもありますので、個人で来られた方にも利用しやすいよう、体験プログラム等についても指定管理者と検討します。

ご発言

⑨ 「流水体験」と「風雨体験」については、劣化部分の設備更新だけでなく、少し何か変化や新しさがほしい

⑩ 「○×」クイズコーナーで備蓄に関するクイズに答えた後、3階の「災害に備えるコーナー」で学習してもらおうと学習効果が向上する。

⑪ 今後、小学生の防災学習の機会は増えてくると思われるが、四季防災館で小学生の質問や調べ学習に対応してもらえると学習効果が期待できる

⑫ 家庭での備えには、子どもの役割はとても大切。家具の転倒防止も子どもが親に話すことで親が金具を取り付けることが多い。「子どもが変われば親が変わる。」

実施設計への反映状況など

・「流水体験」「風雨体験」につきましては、防災教育上の効果や他施設の事例、利用状況等も踏まえ検討しましたが、限られた予算の中で全体のバランスを考慮した結果、今回は主として劣化部分の更新・改修に重点を置くことといたしました。「流水体験」については、リニューアルにより用水路事故への注意喚起も行うこととしており、それを体験するコーナーとしても活用します。

・クイズでも備蓄の問題を取り入れる予定です。
・学習効果の向上の観点では、1階ガイダンスコーナー等で心構えと目的意識を持ってもらい、各コーナーを体験等した後、3階災害に備えるコーナーで日頃の備えを学び、実践につなげるという流れになっています。

・ご意見は解説員等と共有し、例えば解説の最後に質問時間を作るなどニーズに合わせた支援を行い、学習効果の一層の向上に努めます。

・3階災害に備えるコーナーでは、家具の固定器具などの実物展示を行います。また、「防災チェックシート」は学校や自宅などに持ち帰り活用することも想定しており、使用法など周知してまいります。

ご発言

実施設計への反映状況など

⑬地震体験について、能登半島地震の際、人々がどのように動き、どうすべきだったのか、人流データと道路のカメラ映像などを使い、示す映像があるとよい。

・人流データや道路カメラの映像そのものを使うことはできませんでしたが、人流データの分析※によって得られた課題も踏まえ、VRのコンテンツやパネルによる解説(地震発生時の行動、避難所の説明など)を製作することとしています。 ※令和6年能登半島地震災害対応検証報告書

⑭展示施設では、説明やおもてなしといったソフト面も重要であり、マンパワーを使い、話題性があり注目を集められるような工夫も必要

・指定管理者と一緒に、解説員の新たな展示コーナーを含めた分かりやすく効果的な解説、来館者への接遇などおもてなしの力の向上のための研修など検討します。

⑮インドアでの災害体験に連続して、アウトドアでの活動を組み合わせてみることも検討したら面白い

・センター内の訓練施設を使って、一般の方に対し災害体験を行っていただくことは難しいのでジュニア防災フェスティバルや各種研修のなかで取り入れていけないか検討します。

⑯避難に要する時間を体験するようなものを考えてもらえないか。持ち物をそろえて出るまでの時間とか、時間に関わる体験があると地震災害での津波など、とにかく逃げるなど理解ができる。

・VRでは、「地震後の津波からの避難」と「豪雨による浸水に見舞われた垂直避難」の2つの映像を用意します。迫りくる災害からの対処について考えてもらいます。

ご発言

①能登半島地震で多くの経験を積んだ石川県職員等を講師として富山県内の市町村職員に受講してもらうような機会を設けてはどうか

②四季防災館のSNSのフォロワー数が少ないので、頻度をあげるとか、学生ボランティアにお願いして投稿内容を工夫してみるとか取り組みが必要 カターレとのタイアップも面白いかもしれない。

対応状況

- ・今年開催の「ワンチームとやま」災害対応・危機管理体制の連携・強化WGなどにおいて、静岡県や福島県いわき市より、県市職員に対して防災の取組事例を紹介していただいております、こうした機会を提供していきたいと考えております。
- ・休館時にインスタグラムでは、防災クイズなど新しい情報の発信に取り組んでいるところです。リニューアル後は、SNSを使い慣れた方（学生など）にも協力していただいたり、県広報も活用し四季防災館インスタグラムをはじめPRに取り組んでまいります。
- ・スポーツチームなどとのタイアップも検討します。